

# 森林・里山と文化

人と自然の共生

日時：平成21年9月6日（日） 10:00～15:00

講師：寺下 太郎（愛媛大学農学部准教授）

## 概況



### ○ドイツの森林

日本とドイツの森林を比較すると、日本の森林は国土の3分の2を占めるが、ドイツは3分の1である。また、森に対する人々の考え方について、日本では「森とともに」と考えるが、ドイツでは、「森を管理する」という考え方である。ドイツの森林も、日本の里山のように、町の周囲に存在し、狩りの場などとして人が森をつくってきた歴史がある。さらに、ドイツ人には、「森を散歩し、景観を楽しむ」という習慣がある。「景観を楽しむ」ことについて、ドイツ人は特にこだわりを持っている。ドイツの国有林は、連邦有林2%、州有林が98%という比率で成り立っている。州有林は州が独立し、責任を持って管理している。

### ○フォレスター

ドイツには、「森林管理」を担う「フォレスター」と、実際に森に入り森林作業に携わる「マイスター」という職業がある。マイスターという仕事は、日本では、林業労働者とほぼ同義であり、森に入り、間伐し、木を運び出すなど、いわゆる職人である。一方、フォレスターとは、日本では森林管理署のトップにあたり、地域の森林・林業の指導者的立場としての権威が与えられている。そしてこのフォレスターには、他に、森林や林業のことをよく知らない一般の人々に、森林のことを伝えるという役割がある。

### ○ドイツの森林教育

ドイツでは、人と森林の距離が非常に近く、また、フォレスターが子供の頃から森林環境教育を行っており、これが「森に親しみ、景観を楽しむ」ことにつながっている。